

「予測不能」「不測の事態の連続」の10年。これがこの10年の私の率直な感想です。2008年リーマンショック、2011年東日本震災、2012年79円/\$の超円高、2016年熊本地震、2017年北部九州豪雨など次々と災難が降りかかってきました。そのような苦難を乗り越え70周年を迎えられたことを感謝しOGICに関係するすべての皆様のお陰と御礼申し上げます。

しかしこれらの苦難はOGICを進化させてくれました。

リーマンショックの三ヶ月後には売り上げは通常の半分になりましたが、この景気低迷期状態の対応策を若手社員中心に議論を重ねた結果、

「OGICファンを獲得しよう!」「そのためにはまず自分たちの品格を上げる必要がある。」という結論に達し、社員の自発的な社内改革活動がスタートしました。挨拶運動、社会人マナー、プレゼン力向上など社内のコミュニケーションとお客様へのホスピタリティの向上が図られて行き、Seekai活動として定着し現在も進化発展して社内活性化に貢献しています。

さらに若手管理者には基本理念を踏まえ、「最高の品質技術を提供し顧客満足を得る」「業界を先駆けた技術で顧客を創造する」という思いを込めたアンビション(組織が持つ強い思いを一言で理解し合えるシンボリックな言葉)「Only The



## 70周年

地域と共に永続する経営

Best」を創り出してもらい、それは弊社プレゼンシートに組み込むなどしていろいろな場面で社員の士気を鼓舞しています。

また第4次中期事業計画(2013年度～2015年度)においてOGICビジョン「OGICは 地域経済を活性化する『根』となる」(図1)を定めました。「OGICの技術提供により顧客が新しいビジネスを起こす。」「OGICの技術を求めて全国からの新しい顧客が九州と関わるようになる。」のようなイメージです。そのためには「差別化のトライアングル」(図2△abc、詳細は50周年誌P40、P41参照)を構築し続ける努力が不可欠です。それが「不存在のデメリット(無ければ絶対に困る存在)」の確

立に繋がると考えています。

事業分野では新幹線などの高速電車やハイブリッドカーなどに使用されるIGBTパワーモジュールデバイス用ヒートシンク基板及びDBC基板がリーマンショックからの急速な回復に貢献しました。国の成長戦略の重点分野とベクトルがあった技術が危機からいち早く抜け出すことを可能にしたのでした。

そして現在はIoT(Internet of Things)やビッグデータが大量の半導体デバイスの需要を生み出すと予測されるため半導体製造装置業界は非常に多忙な状態が続いています。半導体製造装置メーカーのビジネスモデルは設計と最終アセンブ

リーは自社で行い、部品加工とモジュール組み立ては地域企業にアウトソーシングするというモデルであり、地域産業への波及効果は大きいと考えられます。弊社においても半導体製造装置関連の生産は高水準を継続しています。さらに将来の展望としても2020年代中盤までには電気自動車の普及や自動運転の実現により半導体産業はさらに発展が予測されます。これらの好調な産業に関わる経営の舵取りと技術の開発が重要です。

また熊本地震では大きな打撃を受けました。しかし幸い社員及びその家族には人的被害はなく、避難所暮らしも当初三割くらいでしたが、会社の復旧には社員は勿論、お客様やサプライヤーの皆さま

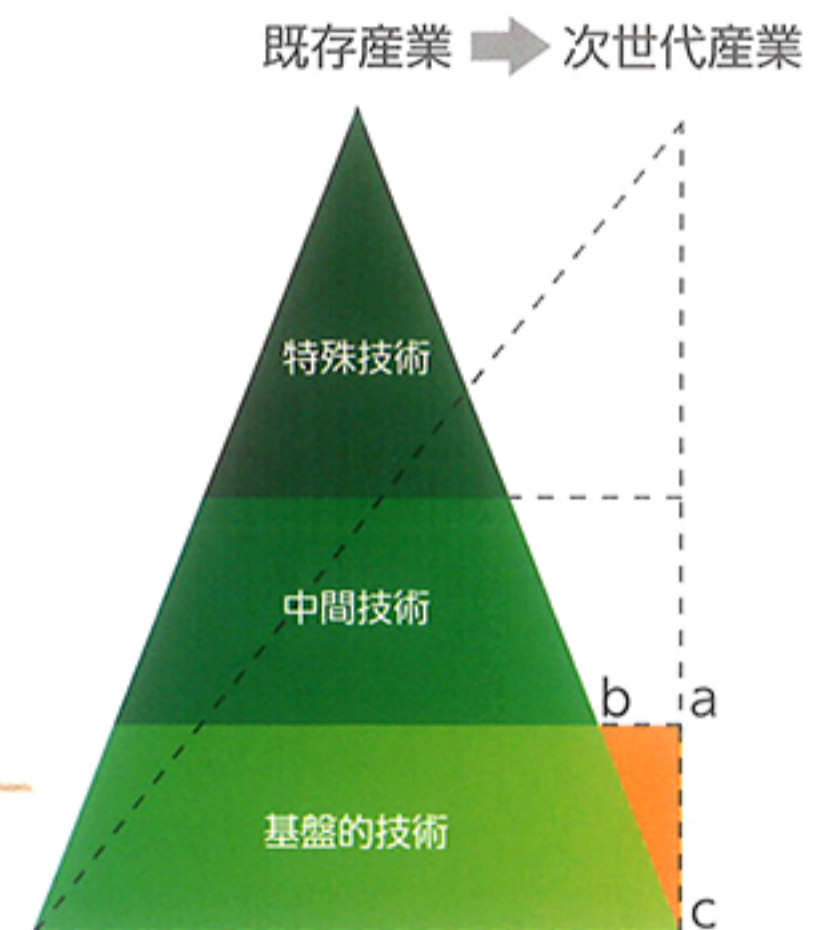
の強力なサポートにより一週間後には半導体や自動車を中心に6割のラインが稼働、二ヶ月後には全面稼働をすることが出来ました。BCPについても被災した経験を踏まえ構築しBCMへと進化させているところです。

危機のたびに一般社団法人熊本県工業連合会(以下工連)が機能しました。リーマンショックの時も熊本地震の直後も緊急幹部会議を開き、工連会員の状況確認、熊本県産業支援課とのコミュニケーションなどによる資金調達の円滑化やグループ補助金体制確立、BCP構築補助などタイムリーな会員サポートにより売り上げ不振や震災の危機を免れた企業は多かったと考えられます。このよう

図1



図2



出展: 関 満博  
「フルセット型産業構造を超えて」  
1993年

に地域の産業界や行政との結束も強化されてきたと感じます。

このような災害続きの中、2015年ラグビーワールドカップのJAPANの活躍は国民に勇気を与えてくれたと思います。私はJAPANのエディヘッドコーチのマネジメントを社内に展開すると共にそのキーワードの一つである「Reload」を2016年度の経営方針のスローガンに掲げました。また電気鍍金研究会など業界の勉強会や工連会長就任時の方針説明にもそのマネジメントを例示させていただきました。そして「Reload」をこの70周年誌のテーマにもさせて頂きました。

弊社は2017年に地域未来牽引企業に認定され

ました。半導体や自動車産業だけでなく地域資源を生かした地域企業と連携による事業にも注力し地域発展に貢献していきたいと考えています。

OGICが今後も地域と共に発展できるように皆様のご支援をお願いして70周年誌のご挨拶とさせていただきます。今後ともOGICをよろしくお願い致します。

2018年5月24日

代表取締役社長

金森秀一

Shuichi Kanamori